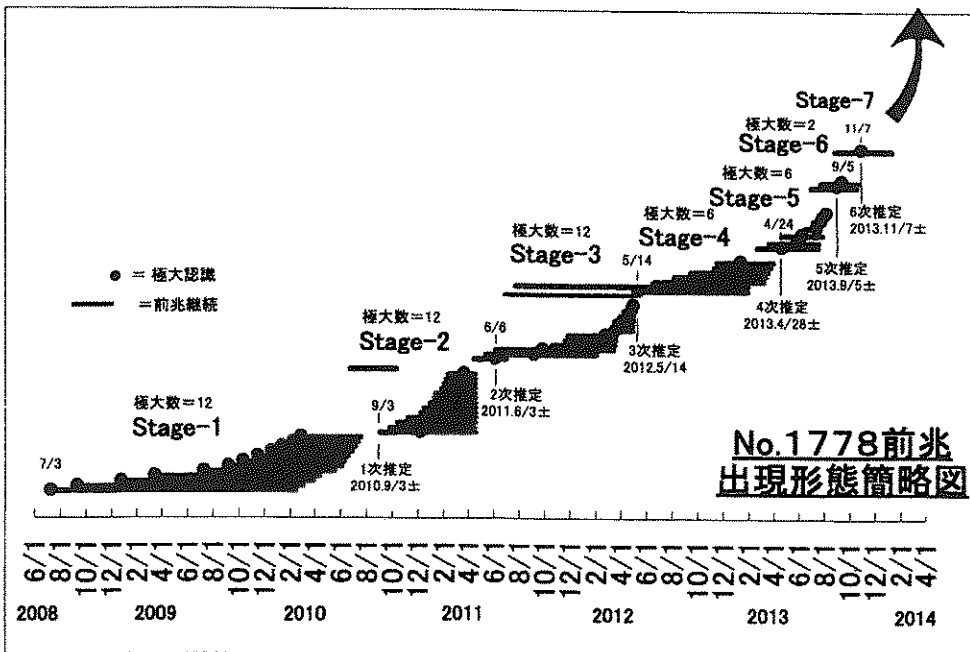
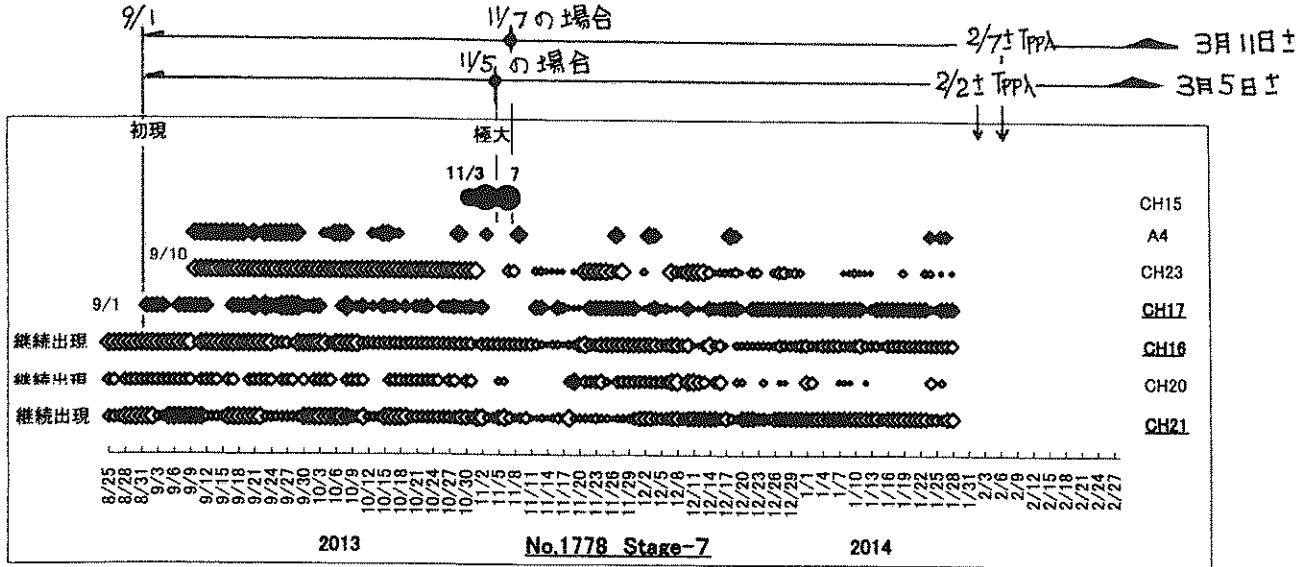


原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報 現況報告



No.1778前兆=2008年7月初旬から出現し、5年半以上前兆が継続する観測歴上最長継続特殊前兆の続報です。

現在の第7ステージ前兆群の出現状況から、2013年9/1初現~11/3極大

2013年9/10初現~11/7極大とする認識が仮に正しい場合は、11/7極大に対する前兆終息静穏化日が1/28±と計算されていました。実際は、最近までの実験観測情報で順次報告のとおり、ハヶ岳のCH16, 17, 21観測装置の特異状態が静穏化傾向の変化を見せながらも継続していることから、上記の認識は誤りであることが明らかです。

従いまして、前回の実験観測情報に記したとおり、少なくとも2月末までの期間中に対応地震が発生する可能性は否定されることとなります。第7ステージの初現、極大認識としては、他に9/1を初現とし、極大時期を11/7とする認識と、11/3-11/7中心の11/5を極大とする認識の2種が可能性として考えられます。第6ステージ前兆群が示

した時期が11/7±であったことを考慮しますと、極大=11/7とする方が良い可能性もあります。初現 2013.9/1 とし、極大 11/5 11/7 の2種でT<sub>fap</sub>:T<sub>map</sub>=20:13 経験則で計算しますと、下のとおりとなります。新たな前兆も新たな極大も無いことから、現在

11/5極大の場合⇒前兆静穏期突入推定=2/2± 推定発生=3月 5日±  
11/7極大の場合⇒前兆静穏期突入推定=2/7± 推定発生=3月11日±

が最終段階である可能性も十分考えられます。実際の前兆終息を確認し、続報で報告させて頂きます。2/10段階で前兆が継続していた場合は、2013年8月中初現とし、04月初旬発生の可能性も考慮して再考します。

※No.1778に関しては公開実験参加の皆様にはFAXによる地震前兆検知実験観測情報で順次報告しておりましたが、HPでの更新が遅れましたこと深くお詫び申し上げます。続報No.58前兆図中のCH26はNo.1778関連の新たな前兆ではなく、昨年01月01日に極大を持つNo.23178 前兆に関連する別の大型地震前兆であることを昨年中から実験観測情報では報告して参りました。従いまして、No.1778関連の新規前兆とは認識しておりません。説明が足りない部分お許し下さい。